

幸福の条件



楠木建



嫉妬という不幸の源泉は 無意味な他者との比較

人間にとって幸福とは何か——
こうした抽象度が高いテーマにつ
いては、僕は対概念とセットで考
えるようにしています。すなわち、
人間にとって最大の不幸とは何
か。僕の答えは他人との比較——
より特定して言えば嫉妬——です。
これこそが幸福の敵であり、人間
にとって最大級の不幸の一つだと
僕は思っています。

嫉妬という不幸にして醜い感情
の源泉は、比較可能性にあります。
面白いことに、自分と比較できな
いところにいる対象に嫉妬する人
はあまりいません。「同じ日本に

生まれた同い年なのに、こいつは
若くして起業に成功して大金持ち
になっている、チキショー……」
と言う人でも、ドバイのハムダン
王子には嫉妬しません。空間的に
遠いし、王家に生まれたわけでは
ない自分とはそもそも比較しよ
うがないからです。

大化の改新を主導した中大兄皇
子に「うまくやりやがって……」
と嫉妬する人はまれです。時間的
に遠すぎて、現代とはまるで状況
が違うので比較可能性は低い。こ
れがアレクサンドロス大王となる
と、ごく一部のマニアを別にして、
嫉妬する人はまずいません。時間
と空間が両方とも遠すぎる。比較
可能性がゼロなので、嫉妬の対象

にはならないのです。

「何で大谷翔平はあんなに成功
しているんだ、チキショー……」
とは思わない。大谷選手が野球能
力の点で比較できる次元にはいな
い人だからです。この裏返しで、
自分について根拠のない有能感を
持っているほど、無意味な他者と
の比較に陥りがちです。「俺はで
きるのに……」という思い込みか
ら、他人と自分を比べて嫉妬に駆
られる。

嫉妬をする人というのは、相手
の成功しているところ、恵まれて
いるところしか見ていない。本当
はアレクサンドロス大王も織田信
長もハムダン王子も、孫正義さん
も、人知れずつらい思いをしてい

るはずですが。ダンデミスという人
が次のように言っています。「他人
の幸福をうらやんではいけない。
なぜならあなたは、彼の密かな悲
しみを知らないのだから」——嫉
妬する人にはそれが見えない。本
来それぞれの人の中にしかない幸
せを、人と比較するのは間違いな
く不幸なことです。

人がうらやむものを 持つのが幸せ？

不幸になるもう一つのパターン
は他律性です。すなわち「人から
幸せだと思われていることが幸
せ」だと思われていること。ラ・ロシュ
フコーの『箴言集』の中に「幸福



になるのは、自分の好きなものを
持っているからであり、他人が良
いと思うものを持っているからで
はない」という名言があります。

不幸を決めるのは自分自身の価
値基準ではありません。価値観
は人によって異なります。本来は
「良いじゃないの、幸せならば」
で話はおしまいです。ところが、
世の中の最大公約的な価値基準

に乗っかってしまうと、いつまで
経っても自分の価値基準がどこに
あるのかわからなくなります。こ
れは根本的な幸福の破壊です。

ずいぶん昔、平成初期の話です
が、ある有名進学予備校で講演す
る機会がありました。予備校の生
徒だけではなく、教育熱心なお母
さまやお父さまも見えていまし
た。当時は今よりも大学受験とい

うものが白熱していたからかもし
れませんが、皆さんすごく真剣で
す。子どもを良い学校に行かせた
いという情熱がたぎっている。

「もしお子さまをどこの学校に
でも入れてあげると言われたら、
どこを選びますか」と質問をし
ますと、「東大です」と言う人が圧
倒的に多い。「なんで東大なので
すか」と聞くと、「やっぱり一番
入るのが難しくて、良い学校だか
ら」「東大に行く」と、より良い職
業に就ける可能性が高いから」と
いう答えが返ってきます。「では、
より良い職業って何でしょう」と
聞くと、「例えば大蔵省（現在の
財務省）とか……」。なぜならそ
れが一番のエリートが就く仕事だ
からです。その中でも、できたら
主計局。それが一番偉いというこ
とになっているから——。

これは「他人が良いと思うもの
を持っている」ことが幸せになっ
てしまうという成り行きを典型で
す。本当は幸せになることが目的
のはずなのに、そのはるか手前
にある手段が目的化してしまう。今

は東大がスタンフォードに、大蔵
省がグーグルに変わっているだけ
で、いつの時代もこういう他律的
な人はいます。

幸福は自分の 頭と心が決める

幸福ほど主観的なものはありま
せん。幸福は、外在的な環境や状
況以上に、その人の頭と心が左右
するものです。あっさり言えば、
ほとんどのことが「気のせい」だ
ということです。自らの頭と心で
自分の価値基準を内省し、それを
自分の言葉で獲得できたら、その
時点で自動的に幸福です。「これ
が幸福だ」と自分で言語化できて
いる状態、これこそが幸福にほ
かりません。

〈くすのきけん〉

経営学者。1964年、東京都出
身。1989年一橋大学大学院商
学研究科修士課程修了。一橋
大学商学部専任講師、同大学
イノベーション研究センター助
教授、一橋ビジネススクール教授
などを経て、2023年から一橋ビ
ジネススクール特任教授。専門
は競争戦略。著書に『ストーリー
としての競争戦略』『絶対悲観
主義』などがある。